

小学校第3学年 算数科学習指導案

学習指導者 丸亀市立城坤小学校 入屋 茜

1 単元名 「あまりのあるわり算－答えのわけを、説明できるようになろう－」

2 単元計画（総時数8時間 【本時7／8】）

- 包含除で余りのあるわり算の意味を理解し、余りの大きさについて考える。（2時間）
- 等分除で余りのあるわり算の意味を理解し、答えの確かめを行う。（2時間）
- 学習内容を確実に身につける。（1時間）
- 問題場面に合わせて、余りの処理の仕方を考える。（2時間）
- 問題に取り組み、学習内容の理解を確認する。（1時間）

3 重点とする授業改善の視点

問題提示では、前時の問題と同じ式で解決できる一方、答え方が異なる問題を提示し、既習内容との小さなズレを生み出すことで、学習への期待感や自己効力感を高められるようにする。また、同じ学習課題に向かいながらも、自分に合った解決手段を選択できる学習環境を整える。単元を通して「説明する」ことを目標とし、選択した手段を用いて考えを整理し、説明できるようにする。

4 本時の学習指導

（1） 目標

青カードの答えがどうなるか説明する活動を通して、余りをそのままにする場合（切り捨て）があることに気づき、自分に合った解決手段でその理由を説明することができる。

（2） 学習指導過程

学習活動と児童の意識	教師の指導
1 前時の振り返りを行う。（赤カード） 前は、余りの2つも箱に入れないといけなかったよ。だから、「1増やす」やり方で、答えが4になったね。	○余りを切り上げる場合のポイントを再確認するために、前時のまとめや振り返りから「1増やす」などのキーワードを取り上げる。 ○前時の練習問題で扱った赤カードを取り上げることで、解決方法や解決手段の見通しをもつことができるようにする。
2 本時の問題にふれる。（青カード） 前の問題と似ているね。前と同じ「1増やす」やり方で、答えは4箱じゃないかな？ 式の答えは前と同じ3あまり2になるけど、答えは前と違って3箱かな。	○赤も青も式は同じであることに気づくことができるように、問題文の共通点に着目する。 ○答えの予想のばらつきを可視化するために、赤白帽を使って予想を示す。
4個入りで売るとき、箱はいくつ必要だろう。	
3 自分に合った解決手段で、青カードの答えの説明を考える。 （1） 個人 図を使って途中まで考えられたよ。でも続きが分からないから、友達と考えてみよう。 赤は余りも入れたけど、青は「売れる箱」を聞かれているから、余りを答えに入れちゃダメだな。 （2） 全体 自分とは違う説明の仕方をしている人も、分かりやすかったよ。その考え方で説明できそう！ （3） グループ いざ説明してみると分からなくなったけど、友達のアドバイスでできるようになったよ。	○自分に合った解決手段を選択できるよう、数図ブロックやヒントカードを用意しておき、各方法のよさや特徴を事前に共有する。 ○学び合いの雰囲気を作るために、困った際には近くの友達と考えるよう全体に声をかける。 ○操作・図・言葉を関連させるために、図や操作だけで終わっている児童には、その図や操作を基にした言葉での説明を考えるよう声をかける。 ○考えを言語化し理解を深めるために、全体共有した後グループに戻し、一人ひとりが自分の言葉で説明する時間を設ける。 ⑦ 青のカードの余りの処理方法について、操作や図、言葉を関連付けて説明することができる。 ○最後に、赤カードと青カードの答えの違いにふれることで、同じ式でも余りの処理方法が異なる場合があることに気づかせる。
4個入りで売るから、余りの2個は「入れない」。だから、答えは3箱になる。	
4 本時の学びについて振り返る。 これから、最後まできちんと問題を読んで考えたい。	○振り返る観点をいくつか提示し、自分の学びを様々な視点で整理して表現できるようにする。

授業づくりのポイント

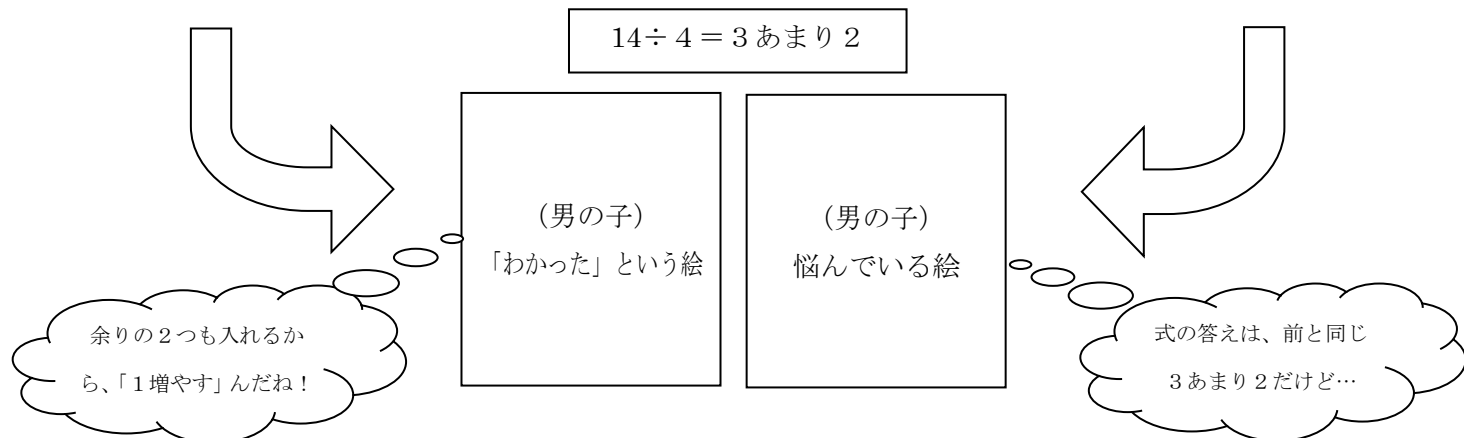
5 学習への期待感や自己効力感を高められる課題設定

【前時の問題】

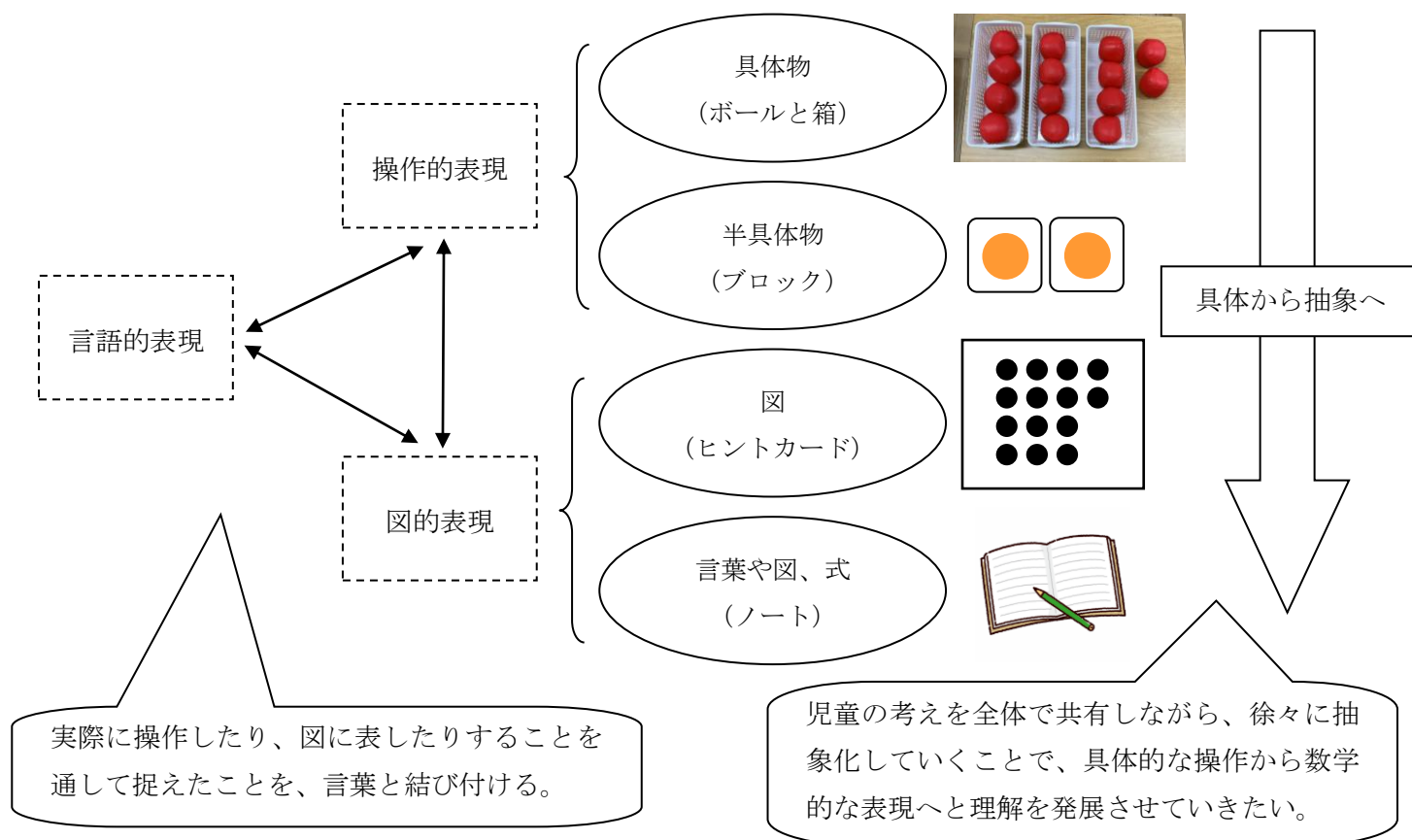
りんご 14 個を、1 箱 4 個ずつ入れていきます。
全部のりんごを入れるには、箱はいくつ必要ですか。

【本時の問題】

りんご 14 個を、1 箱 4 個ずつ入れていきます。
4 個入りで売るとき、売れる箱は何箱できますか。



6 自分に合った課題解決方法を選択できる学習環境（説明することを目標として）



単元を通しての目標「説明する」

全体共有の後には、グループで一人ずつ自分の考えを説明する時間を設ける。全体共有を通して分かったつもりになっている児童も、自分の言葉で説明することで、「これはどういう意味なのだろう。」「どのように説明すればよいのだろう。」と、自分の理解が曖昧になっている部分に気付くことができる。そして、説明する中で生じた疑問や曖昧な部分をグループで話し合い、互いに補い合うことで、一人ひとりの確かな理解へとつなげていきたい。

友達と話し合っている絵